

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	0970101424
法人名	有限会社 シルバーケアサービス
事業所名	グループホーム 寿楽亭番館
訪問調査日	平成 21 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 22 日
評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日

平成21年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101424		
法人名	有限会社 シルバーケアサービス		
事業所名	グループホーム 寿楽壺番館		
所在地	栃木県宇都宮市鶴田町2854 (電話) 028-614-1771		
評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県宇都宮市大和2-12-27 小牧ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成21年12月22日

【情報提供票より】 (21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人	
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り, 2階建て 1, 2階部分, 併設なし		
------	-----------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円			水道光熱費 20,000円 日用生活品費 4,500円 ベッド・寝具一式 4,800円 おむつ代他 実費
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無			有りの場合 償却の有無
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	0円
	または1日当たり ー 円			

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88歳	最低	82歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひばりクリニック・岩本歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム寿楽壺番館は平成13年の創業で、宇都宮市で最初のグループホームです。宇都宮市の西部文教地区に近い住宅街の一角にあり、「一緒にゆっくり楽しく」をモットーに笑顔を大切にしたり寄り添う支援が創業以来の伝統です。平成19年から経営母体が県内で多くの介護施設を運営しているフレンドグループの傘下に入り、それまで培ってきた入居者を中心に考えた寄り添う支援に、フレンドグループの介護ノウハウが融合し、質の高い介護を提供できる事業所となっている。建物は社員寮であった鉄筋二階建てを改造して使用しているため、エレベータの設置が困難などの構造上の課題はあるが、逆に安全に対する考え方を職員に徹底することにもつながっている。全利用者のかかりつけ医となってもらっている協力医との連携も良く、毎週往診してもらっている。24時間訪問看護ステーションとの契約も行い、医療連携体制加算の指定も受けている。ターミナルケアも対応するというので、家族からも感謝されている。創業以来の利用者もあり、介護度が高くなってきているが、伝統となっている寄り添う支援が家族からも高く評価されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年は管理者の交代などの事情で実施していないため、一昨年からの課題の取り組みとなるが、毎朝のミーティングでの理念の確認、火災の避難訓練に近隣住民の参加、階段の手摺設置など改善されている項目はあるが、逆に中断した内容もあり、今回の評価が再出発となることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全員で行った、2年ぶりに実施のため、今回が初めての職員もいて、全員が新鮮な気分で評価に取り組むことができた。「気づき」や「改善点」が多く発見でき、改めて評価の意義を認識することができた。具体的な改善目標の設定を検討中であり、サービス向上につながっていくことを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は経営母体の変更や、管理者の交代などの事情で約2年程中断していた。今回の外部評価を機に10月に実施された、以降2カ月に一回の割合で実施する計画になっている。メンバーは地域包括支援センター、民生委員、自治会副会長、隣組住人、入居者家族、社長などで、報告事項が主であったが、早速具体的な改善へとつながる防災に関する提案などもあった。今後会議の運営が、外部評価での指摘内容など各課題について、推進委員に改善案立案と、推進のモニター役になって頂く双方向型となってサービス向上につながっていくことを期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進委員会への出席、訪問時などに意見を伺い運営へ反映するように対応している。月々の請求時は行事連絡など情報を発信している。苦情を受けた場合は苦情の受付処理記録へ必ず記入し、全員へ徹底すると共に運営に反映させるよう努めている。月々の発信情報に運営推進会議事録ダイジェスト版や職員の異動なども記載して充実させ、事業所運営に家族の関心を高めてもらうような取り組みを期待します。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、敬老会や運動会など地域の行事に参加するなど、地域の一員として活動できている。隣組とも避難訓練で協力しあうような関係が築けている。近所のお年寄りが気軽に立ち寄るなど地域に溶け込んでいる。今後警察や消防団などの地域資源との関係づくりも進められることを期待します。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一緒にゆっくりと楽しくをモットーに、地域の方々とのかかわりを持ちながら、毎日笑顔で過ごせるように」をテーマにした基本理念が、創業時全職員の思いとして設定され、以来事業所の伝統として受け継がれている。さらに「一人ひとりの笑顔を大切に」と題し、ケアについての考え方をより具現化した運営理念も併せて設定されており、双方が創業からの事業所独自の理念として定着している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をさらに具体的な行動に結びつけるために、「スタッフとして」というタイトルで、日々の支援活動にかかわる基本的な心構えを6項目に整理し、簡潔に記した行動指針が設定されている。これらは事務所や食堂に貼り出され、朝のミーティングでは基本理念と併せて唱和し日々認識を新たにしながら実践に向けて取り組んでいる。	○	基本理念、運営理念、行動指針といずれもしっかりした考えを基に作成されているが、より簡潔な表現に変えるなど分かり易く整理することも検討し、日々の支援活動の中で力強く実践することによって、事業所の伝統をさらに深めていかれるような取り組みを期待します。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街の一角に立地し、自治会にも入り、班長を務めるなど地域の一員としての役割を果たしている。隣組とも避難訓練で協力しあうような関係が築けている。体育祭や敬老会などのイベントにも自治会からの誘いがあり参加している。施設内で犬を飼っていることもあり、近所の人が自由に出入りし、お年寄りが散歩の途中で立ち寄ってお茶を飲んで行くこともあり、地域に溶け込んだ良好な関係が保たれている。	○	自治会や近隣との連携は十分なされていますが、更なる地域資源の活用を図るために、警察、地域消防団などとの連携を築いて行かれることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価を行った。去年は管理者の交代など諸般の事情で外部評価を実施できなかった。今年は自己評価を進めていく中で、全員が各項目の意味を掘り下げることにより、評価の意義をあらためて認識し直すことができた。多くの「気づき」や「改善点」が見つかり、これらを具体的なサービス向上につなげるよう、職員会議などで全員に徹底するなど、業務改善につなげる取り組みをしている。	○	今回の外部評価を機に、ルールに則り継続して外部評価を受審し、「気づき」や「改善点」を基に業務改善につなげ、更なるサービス向上に努められることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	経営母体の変更や管理者の交代など諸般の事情で2年ほど開催されていなかったが、10月に実施した。地域包括支援センター、民生委員、自治会副会長、隣組住人、利用者家族、社長などが出席した。久しぶりの会議でもあり、報告や連絡が主であったが、非常時の課題についての指摘など、運営についての有効な会議となった。	○	今回の開催を機に運営推進会議の意義と目的を再認識して、定期開催を実施すること。推進委員の方々には今回の評価結果を踏まえた改善目標設定の時点から参加して頂き、推進のモニター役になって頂くなど双方向型の会議となってサービス向上につながるものになっていくことを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には定例的に事業所の利用状況報告を行うと共に、必要に応じて利用者の入退院の相談をするなどして、連携を取っている。市主催の各種研修会にも積極的に参加しており、必要な情報交換は行い連携を取っている。	○	構造上の悩みなど、率直に相談を持ちかけ、適切なアドバイスや、同じような悩みを持つ他施設の取り組み状況の情報提供を受けるなど、より緊密な連携でサービスの質の向上が図られることに期待します。

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制						
	7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時には事業所内の様子を詳しく報告している。家族の訪問があまり多くない利用者については、その都度必要に応じて電話で報告をしている。月々の請求をする時、預かり金の出納状況と行事案内など事業所からの簡単な連絡を発信している。</p>	○	<p>月々の請求時に発信する内容に、運営推進会議議事録ダイジェスト版や、職員の異動情報、利用者固有の情報を記載するなど、家族への報告内容を充実させることにより、事業所への関心をより強く持ってもらえるような取り組みを期待します。</p>
	8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には家族代表に参加していただき、意見・不満・苦情を述べる場を設けている。家族が訪れた場合はできるだけ意見を聴くように心がけている。いただいた意見は相談苦情の受付処理記録へ必ず記入し、職員会議に図り全員へ徹底すると共に運営に反映させるよう努めている。</p>		
	9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職場の環境改善について職員の要望を聴いたり、勤務時間、休日の設定について出来る限り希望に添えるよう配慮するなど、離職を極力発生させない努力をしている。やむなく異動や離職が発生し担当を変更せざるをえない場合も、原則一ヶ月の猶予を取るよう運用し、慣れるまで助走期間を取り、利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援						
	10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験や能力に合わせて研修を受講する機会を設け、職員の能力向上に努めている。法人グループでは毎月研修が行われ、職員が順番で受講している。法人外の研修も啓発目標に応じて受講している。研修報告はミーティングでの報告や回覧し全員で共有している。さらに仕事を通じて能力向上が図れるよう、経験豊富な職員による現場での実践指導にも努めている。</p>	○	<p>向上心の強い職員が多いので、計画的に外部研修参加ができる年間育成計画を作成され、職員のモチベーションがさらに向上する事を期待します。</p>
	11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加入しており、定例会への参加などを通して情報交換をしている。包括支援センターとの交流を通してネットワークづくりも行っている。年に数回程度グループ内の事業所を訪問する機会があり、情報を共有すると共に相互啓発に努めており、良いところは積極的に取り入れるよう取り組んでいる。</p>		

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があった場合、本人の希望や家族の考えを良く聴き、グループホームのサービスが最適かどうか時間をかけて十分見極めるようにしている。希望により施設見学や一日体験などを行い、サービスを開始するようにしている。入居後は様子を観察し場合によっては寄り添いながら、家族と連携しつつ、馴染みながらの生活を支援するように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念にも謳われているように、一緒にゆっくり楽しくをモットーにした、共に支えあって生活することを基本に支援している。職員を手伝って洗濯物を干したり、取り入れてたたんだりしてもらっている、食事についても出来る方には、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。昼食後のひと時では職員と楽しそうに会話したり、皆思いおもいの時間を過ごしている様子が窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしさを発揮していただくような支援が理念であり、話をよく聴くということが行動指針にもある。職員全員が利用者の生活歴や家族からの情報を共有し、寄り添いながら利用者の思いや意向を把握することに心掛けている。介護度が高くなって会話が困難な利用者に対しては、表情や仕草からも汲み取るように心がけている。	○	利用者の高齢化によるADLの低下に伴い、平均的に寄り添う時間が長くなり、特定の個人にじっくり時間をかけて、お墓参りや、思い出の場所へ出かけるなどの外出支援が難しい状況になりつつあるようですが、限られた時間のなかで、利用者がもっとも望んでいる内容を聴きだして、限定して対応できるよう工夫されること期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための日々の支援介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーが利用者や家族の意向を聴きながら、主治医の指示を活かして介護計画を作成している。日々の暮らしぶりなどについての職員からの意見や、アイデアも十分に考慮して取り入れるようにもしている。作成した介護計画書は家族に説明をして同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議での意見や情報収集に基づいて、定期的に介護計画の見直しを行っている。さらに入退院や病状の変化、担当職員からの申し出など、定例に限らず状況に変化が見られた時には、スタッフ会議を行い計画の変更を随時行うと共に家族に報告し同意を得ている。		

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
	17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		医療連携体制の指定を受け、訪問看護による24時間対応は家族や、利用者にとって大変安心感をもって受け入れてもらっている。利用者や家族からの要望をできるだけ取り入れ、柔軟な支援をしている。毎年一泊旅行を企画して家族同伴での外泊の機会を提供しており、大変好評である。近所のお年寄りに散歩の途中で立ち寄ってお茶を飲んで行ってもらうような対応をすることもある。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための日々の支援						
	18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		利用者全員、協力医療機関が「かかりつけ医」となっており、毎週往診に来てもらい、一階、二階の利用者が階単位に隔週で診察を受けている。歯科医にも必要に応じて往診してもらっている。医師と綿密な連携を取りながら医療を受けられるようにしている。症状の変化が見られるなど状況によっては往診時に家族にも立ち会ってもらうなど配慮している。さらに専門医への診察を協力医を通して依頼するなど、医師、家族と連携を取りながら支援をしている。	
	19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		事業所としてはターミナルケアに対応している。重度化の兆しが見えた時は早い段階から利用者、家族の意向を確認しつつ、主治医と相談して施設の受け入れ体制を整えるようにしている。24時間対応の訪問看護ステーションと連携しており、適切にアドバイスしてくれ、職員も安心して対応できている。本年6月にはターミナルケアに対応した事例があった。	事業所の対応が家族の安心につながっていると思われます。ただし家族により考え方はそれぞれだと思いますので、家族間の合意が前提条件です。早い段階から家族と話し合わせ、家族・かかりつけ医・事業所との連携がスムーズにいくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
	20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		行動指針に「プライドに気を付けプライバシーへの配慮を忘れず尊厳ある生活を支える」とあり、毎朝全員で唱和し、確認をして利用者の支援をおこなっている。言葉をかける時は自尊心を傷つけないように注意し、プライバシーに関することは1対1の時に話をするなど配慮している。個人情報は事務所内の施錠可能な所定の場所に適切に保管されている。	
	21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		一日のおおよその時間割はあるが、その時間割を無理強いすることなく、一人ひとりのペースに合わせて生活してもらうよう支援している。多くの時間を食堂兼ホールでの歓談、縫物など思いおまいの生活を楽しんでいる。天気の良い日には日光浴を兼ねて全員でベランダに出てお茶の時間を楽しむこともある。	

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から宅配で届けられ、施設で職員が調理している。一週間に一回程度は宅配ではなく、事業所独自のメニューを考え、テーブルの上でお好み焼きをするなど楽しんで食事してもらうよう工夫している。可能な利用者には簡単な下ごしらえや、配膳、後片付けなどの手伝いをしてもらっている。食事は職員と一緒にテーブルで会話を楽しみながら摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂場は一ヶ所で浴槽が2個あり、片方の浴槽にはシフト座式の昇降機が設置してあり、一人の介助で入浴できるようになっている。もう一方はやや大きめの浴槽で希望で二人で一緒に入られる利用者もいる。入浴日は原則一日おきとなっている。時間帯は予め利用者に希望など聞いたうえで様子を見て声掛けをしている。入浴剤なども工夫して、楽しんでもらうよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや後片付け、洗たく物干しや、取り入れ、たたむなど自分でやれる利用者には積極的に役目を果たしてもらうようにしている。行動指針にもある「衣」「食」「住」を一緒に楽しむ支援が実践されていた。ほぼ毎月季節に応じたイベントを企画して楽しんでもらえるようにしている。12月は「もちつき」を予定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い時期には週1~2回の頻度で散歩に出かけている。近くに公園や小学校があり、子供の姿や歓声が程良い気晴らしにもなっている。犬を飼っていることもあり、犬の散歩をしてもらうこともある。利用者の希望で食べたいものがある時などは、近所のスーパーに買い物に出かけるなどして、一人ひとりの希望に沿った外出の支援をしている。		
(4)安心と安全をさせる支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関の出入りが把握し難く、しかも玄関のロープが急で道路との距離があまりないので、事故防止を最優先に考え廊下から玄関への引き戸にはフックがかかっている場合が多い。居室やホールからベランダに出るドアには鍵をかけていない。帰宅願望の強い利用者に対しては、職員が寄り添って外出するなどして心理的な不安や閉塞感を感じないよう配慮して取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。直近では10月に実施し、近所の方にも参加をしていただいた。火災時のマニュアルも整備してある。廊下には緊急対応時の手順を簡潔にまとめたポスターが張り出していた。運営推進会議での指摘で非常食の備蓄を検討中である。二階の利用者の避難経路は内部のやや急な階段のみという課題があり、夜間の場合は近所の協力をお願いして同意を得ている。	○	二階建て、エレベータなし、急勾配の階段という構造上の問題は災害時に限らず、利用者の重度化に伴う安全性確保、職員の負担増などの課題が懸念されます。有事の前になんらかの解決策を模索し対応されることを期待します。さらに夜間の避難については近所の協力は不可欠であり、訓練参加時は詳細な避難方法を入念に打ち合わせ徹底しておかれることを期待します。

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー及び食材は宅配のものを使用しているが、栄養士により管理されており、適切なカロリー及び栄養バランスが確保されている。水分摂取も1200mlを目安に適宜摂取してもらっている。自分で摂取ができない利用者には職員の介助で摂取している。各利用者については毎日食事の摂取状況や、水分の補給量について記録している。嚥下状態が良くない利用者については食事形態を変えるなど工夫をして栄養摂取の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮を改築して使用している関係で、スペース的には広くはないが、季節が感じられるように玄関や食堂には花や植木鉢が置かれていた。家庭的な雰囲気を作り出すよう廊下には行事の写真を張り出すなどしていた。食堂兼ホールで利用者が多くの自由時間を過ごす、温度調節や採光も職員がこまめに管理して過ごしやすい環境を作るように配慮している。手書きの童謡歌詞を貼るなど温かみを感じるような工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階に洋室4部屋、2階に和室5部屋となっており、各部屋にはクローゼットと低めの物置用棚が作りつけになっている。全室南向きになっており、出窓やテラスが付いている。利用者は家族と相談し、テレビやタンスのほか、仏壇や植木を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり思い思いの工夫をして居心地よく過ごせるようにしていた。		